



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会

2008 / 6 / 28 (土)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 25

6月5日から8日までの4日間にわたり北見市で開催された平成20年度北海道学生バスケットボール春季選手権大会の総評を札幌大学の倉島武徳先生から送っていただきました。大学のバスケットボール事情には指導者不足が見逃せません。大学生という年齢は独り立ちをするのか、まだ他人を頼りにするのかというところでどっち付かずです。こういう課題も含めて指導者養成専門委員会では指導者の輩出に努力していかなければならないと思いました。

第58回 (平成20年度) 北海道学生バスケットボール春季選手権大会 (総評)

平成20年度最初の学生選手権が6月5日から8日まで北見地区バスケットボール協会の後援をいただいて北見体育センターを中心に開催された。

結果は、男子は札幌大学が決勝で北海学園大学の猛追に遭い74-70の僅差で30回目の優勝を遂げた。女子は函館大学が圧倒的な強さを発揮して、準決勝では札幌大学を68-38と一方的に破り、決勝でも北翔大学を83-64と全く危なげなく勝ち、初優勝を勝ち取った。

男子は札幌大学・北海学園大学・北海道大学・酪農学園大学の4強と、東海大学・道都大学・教育大学旭川校・室蘭工業大学などは比較的实力差が縮まってきた感がある。これはやはりリーグ戦の効果が発現してきたのではないと思われる。一方では教育大学岩見沢校・北翔大学・北海道工業大学などが思うような成果が上げられず苦悩の状況であろう。

さらに悪化しているのが、教育大学札幌校で新人1名を入れ6名のエントリーしかしていないのは、名門北籠クラブを繋ぐことができるのか危惧される場所である。

女子は函館大学・北翔大学・札幌大学・教育大学岩見沢校の4強とそれ以外のチームとの間には相当の実力差があり、現段階では4強時代がしばらく続きそうである。しかし、そう言いながら次に続くチーム間では、嘗てのようなチーム間の力関係の差が無くなりつつある。これもリーグ戦効果であろうが、女子の場合はさらにそこに指導者が現れたという事情もある。男子の27チーム中9チーム以外は殆ど大半のチームが指導者不在であるが、女子は17チーム中9チームに指導者がついている。

北海道大学選手権(今年度から「学生」を「大学」に改めることになっている)を争う大会で、男子のNBAまがいのプレーに被れ、同好会と見間違えるような感覚で参加し、見苦しい態度を取る弱小チームを見ると、今後このチームが本当に勝負をしてくるのかどうか、寂しいを通り越して情けなくなってくる。女子はさすがにこのようなことはないが、早く4強に追いつくようなチームが出てくることを期待する。

今大会では新人がどのような所に入社し、どのような活躍をするのかも一つの焦点であったが、男女とも上位4チームの新人は比較的順調なデビューであった。いずれも高校時代に

は全道大会出場の常連チームの選手であり肯首されることではあるが、やはり上級生を凌駕することは出来ていなかった。リーグ戦に向けて一層の精進が望まれる。

もう一つの焦点は、新人がどのくらい入学しているかであるが、このことに関しては残念ながら男子は35名（全エントリー27チーム348名）で12チームには新人がエントリーされていなかった。女子は38名（全エントリー17チーム181名）で4チームに新人がいなかった。今後のチーム編成と存続に杞憂される状況と言ってよいだろう。

今大会で技術的な期待はあまりなかったが、ただ選手がゲームの状況をどの程度把握しながら戦っているのか、首を傾げるようなことが再三あったことを記しておかなければならないだろう。

審判のレベルは選手の技術水準との関係もあるが、必ずしも納得できるものではない。特に代表的なものはトラベリングを見落として、その直後のファウルを取るケース。狭いディフェンスの間を無理やり突っ込んでファウルを貰うケース、インサイドにおける場所取りは圧倒的にディフェンス不利に吹かれるケースである。最近のトラベリング無視には目に余るものがある。これは悪いプレーを助長するものであり、到底容認できるものではない。

勿論、審判もノーミスで1ゲームを吹けるわけではないことぐらいは理解しているが、度を越している事実を改めて指摘したい。審判はゲームのコントローラーではないのである。交通整理役に徹してもらいたいものだ。そうでなければコーチの目を見て「良いプレーか悪いプレーか」を判定して欲しい。（了）

H B A（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会